

日本山岳会蔵資料紹介 No.8

[資産番号] 00481～00500
 [資料名] 堀田弥一の遺品
 [部門名] 書簡、ネガフィルム
 [寄贈者] 立教山友会
 [受入日] 2011年4月



堀田の日記



①休憩する隊に集まる村人



②ナムルからサルティコーラへ



③ガネッシュのBCより望むスリンギ・ヒマール

前号に引き続き堀田弥一より寄贈された資料より、日記の一部とオリジナル写真を紹介する。

サマ部落での日記「4月6日 …早朝より沢山のチベット人が集まってきた。……昨晚傳令に來た使者……途中ローにて投石その他の迫害を受けた由、一刻も早く安全地帯へ引き上げるべき……4時頃、村山君が来て一切が明白になった。サマに入ることは出来ない……シャルコーラの奥に住むスーパーへの連絡を至急とることになった」。「4月14日 スーパーを中心にサマ側と遠征隊側が会谈することになった。サマ側はどうしても譲らず……協議の結果、ガネッシュ・ヒマールに行くことに決定した。サマ側が拒否する理由は……」と詳細が続く。そして新たな目標の山を目指すも第2のサマ事件が発生しそうなこと、ガネッシュへの挑戦から撤退にいたるまでが記されている。

堀田は帰国に際し、遠征が失敗に終わったことで一敗塗地になるのではと苦しんでいたようだ。それは、妻に宛てた手紙から察することができる。

マナスル遠征で撮影したオリジナルネガ(60ミリ×45ミリ)256枚も寄贈されている。カルカット、カトマンズ、ニヤック、ナムル、サルティコーラ、ベースキャンプ、ドマンなどで撮影したもので、当時を知るうえで、歴史的に価値あるものであろう。①～②の写真はキャラバンの様子、③はスリンギ・ヒマール。

この時代の遠征隊は国を挙げての大プロジェクトであった。それぞれがそれぞれの立場で、大きな役割・期待・プレッシャーを背負いながら山と向き合っていた。そして、その時代があって今があるということ、これらの資料が教えてくれる。

なお、日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→資料映像委員会→所蔵資料紹介のページへアクセスすると、「会報ページそのもの」を拡大して見ることができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。✉jacshiryoy102@jac.or.jp (資料映像委員会)

◆編集後記◆

●先日、会報編集委員会を開いたところ、10人全委員の出席があった。JACの長い歴史があるからこそ、積み重ね受け継ぐことができた魅力と、若手会員たちが吹き込む新しい風をいかに融合させるか。それは紙面展開だけでなく、会全体の課題でもある。ある委員は、「もっとユーモラスに書いてもよいのでは」と。会報作りにもいろいろな方向性と多様な手段がありそうだ。

●今月号は、私が晩餐会後からネパール出張に出ているため、ほかの委員、担当理事が編集と校了の作業をしてくれています。来年は、編集委員会はもちろんのこと、会員の皆さんが、より一層積極的に参加してもらえような会報作りを考えたいと思います。よい年をお迎えください。(柏澄子)

日本山岳会会報 山 823号

2013年(平成25年)12月20日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイツ四番町
 TEL 東京(03)3261-4433
 FAX 東京(03)3261-4441
 発行者 日本山岳会会長 森 武昭
 編集人 柏 澄子
 E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社